



えんどう ひろき 遠藤 裕樹 議員

問 町の活性化への構想は

答 地域経済の回復とともに効果的に進める

盛岡中央消防署葛巻分署の跡地は、国道281号と町道茶屋場田子線を結ぶ連絡道としての活用を予定している。

跡地利用について 議員 新庁舎完成に伴う施設等の移転の跡地利用は、どのように活用していくか。 町長 現在、新庁舎の建設については、行政機能のほか交流機能、商工・金融機能を有する複合施設として、本年8月の竣工を目指し工事を進めている。 各施設の移転後の跡地利用については、商工会と盛岡信用金庫は、町の直接関与する財産ではないが、中心市街地の施設のため施設所有者と協議を進めにぎわい創出、まちなか活性化などの目的での活用に資することができればと考えている。



完成間近の大橋（4月6日）

安全な歩道整備について 議員 人流の変化と歩き回りにくくなるまちづくりの実現のため、安全・安心な歩道整備等どう進めていくか。 町長 大橋架け替え工事完了後は町中心部の車両の流れが大きく変化することが予想される。 中心市街地の国道281号の交通量も、相当減少すると思われる。国道や町道町裏線などは幅員が狭く住居等が近接している状況から、一定の幅

員を確保した歩道整備は厳しいものと考えて。 町裏線については、カラー区画線による歩行空間を設定し安全確保に努めており、町道茶屋場田子線では、歩道を田子ふれあいセンターまで延長する事業を進めている。 まちなかの取組みについては、エリア内の施設、道路状況を加味し、ソフト面での対策で環境を整えることで、来町者の皆さんに安全・安心を提供したい。

具体的な事業は、「エンジンヨイチケット販売事業」「特産品販売促進事業」「商工業者持続化給付金」「着地型観光体制構築事業」「特産品高付加価値化支援事業」など、新年度早々に事業展開、地域経済の回復と活性化が効果的に行なわれるよう努めたい。

今後の活性化の方針は 議員 コロナでダメージを受けた町を、活性化するための予算措置は。 町長 新型コロナウイルス感染症での対応に向け、国が地方公共団体に配分する「地方創生臨時交付金」は、一般の国の補正予算で6・8兆円増額され、当町には約1億900万円の交付限度額が示された。この交付金で町内経済の活性化を図るため、4年度当初予算案に、関係事業費を計上している。



しばた いさお 柴田 勇雄 議員

問 町行政デジタル化推進の取組みは

答 オンライン申請など取組みを強化

デジタル化に伴うメリットは 議員 デジタル化が想定される町行政業務内容やメリットは。 町長 町では、令和4年度末までに「行政手続きサービス」のオンライン化、「令和7年度末までには「基幹業務システム」の標準化に向けた様式の統一化」などを踏まえた、住民情報を取り扱うシステムの改修を行うこととしている。 庁舎内では既に、令和2年1月には「出勤簿」などの書類の一部をペーパー・レス化しているほか、今後は、電子決裁、会議システムなどの導入により、デジタル化を一層推進していく予定である。 デジタル化・ICTの利活用における最大のメリットは、「時間と場所を問わない」ことであり、



早急な手入れが必要な山林

その代表的な取組み事例に「オンライン申請」がある。窓口に向くことなく様々な行政手続きが出来るほか、夜間や休日など、申請者のライフスタイルに合わせた利用ができることがメリットとして挙げられる。 デジタル化による業務の効率化は住民サービスの向上に繋がるものであり、引き続き、デジタル化への移行に向けた検討・取組みを強化していく。

議員 町では、森林環境譲与税に 議員 町では、森林環境譲与税の大部分を基金に積み立てしている。 財源の積極的活用を図り、全国のモデルとなる森林環境整備の方針の構築について伺う。 町長 町では、対象森林の所有者に対し、意向調査・現状調査を実施しており、令和4年度からは調査を終えた区域から順次、森林整備事業に取り組みることとしている。 継続して担い手の確保・育成、木材の利用促進など、森林が持つ豊かな資源と公益的機能が十分に発揮されるよう努

こうしたことから、希望者へのワクチン接種は、葛巻病院の小児科外来において、毎週木曜日に個別接種を行えるよう準備を進めており、接種の体制が整いしだい対象者の皆さんに周知する予定である。

ワクチン接種について 議員 町内における5歳から11歳の対象児童数とワクチン接種への対応を伺う。 町長 対象児童数は、2月末現在198人が対象となる。 児童へのワクチン接種については、法律上の努力義務からは除外されているが、児童はもちろん保護者を含めて、安心して接種が受けられる、きめ細かな説明と対応、接種体制が求められると思う。